

＜空の安全・安心を！整理解雇四要件を守れ！＞

2020.6.16

JAL闘争を支える京都の会News No. 66

京都市東山区今熊野南日吉町 17 FAX : 075-531-3856 E-mail : komai123@kfa.biglobe.ne.jp

6.13 京都市京セラ美術館前で「稻盛和夫はJAL 165名の首切り撤回せよ」と、豪雨の中抗議宣伝、関生の仲間もマイクで訴え！



稻盛和夫氏ひきいる京セラは京都市立美術館の50年間の命名権を京都市から50億円で買い取り、5月26日に「京都市京セラ美術館」としてリニューアルオープンしました。80年以上の歴史がある「京都市美術館」に一企業名を付けることに市民から多くの批判が出ています。京セラ創業者・稻盛氏は京セラの名誉顧問であり、JALの名誉顧問です。

6月13日すさまじい豪雨の下、京都市京セラ美術館前ではJAL闘争を支える京都の会の呼びかけにたくさんの労働者・市民が参加していただき、プラカードを持ち、のぼりを立て、横断幕を持って、道行く人と入館者にチラシ配布も行い。JAL不当解雇撤回を求める抗議宣伝行動をおこないました。おりしも、この日は大阪府警察本部前では641日と644日もの不当勾留を完全黙秘で闘いぬいて先般奪還された連帯ユニオン武委員長と湯川副委員長の奪還闘争報告集会とかち合って、参加者二分しての参加となりましたが、



若狭の原発を考える会やXバンドレーダー基地反対京都連絡会、憲法を生かす京都の会、9条ネット・滋賀などの市民団体やユニオンネットワーク京都に参加される労働者のみなさんなど、20人を超えるご参加をいただきました。



各団体からマイクで雨をついた宣伝をしていただき、連帯ユニオン関西地区生コン支部の仲間からは、京セラ・JAL稻盛和夫に対する批判と早急にJALのベテランパイロット・キャビンアテンダント165名の解雇撤回をすべきだと、熱い連帯挨拶が繰り広げられました。若狭の原発を考える会の木原壯林代表からは「今、大企業の経営者は本当にモラルが低下し、この社会における大企業経営者としての責任を放棄した言動がはなはだしい」と、関電原発マネ

一問題と安倍政権と一緒に原発に固執し、40年をはるかに越える老朽原発を再稼働しようとたくらむ関西電力経営陣と、一私企業が市民の美術館をカネに物言わせて名づけを強制する厚かましさに、断固抗議の発言をされました。

京丹後の米軍Xバンドレーダー基地撤去を目指し闘う仲間からは、かつて31年前サイバネット社を京セラが買収して、そこで働く人たちがつくっていた労組つぶしで起きた労働争議を振り返り、「一応和解解決とはなったが、闘う労働組合つぶしのひどさはJALでの首切りと一緒にあり、決して許されない。稻盛和夫はJAL 165名の解雇撤回をただちに行え。」と訴えられました。



京都市左京区岡崎の平安神宮南に位置するこの美術館、リニューアルオープン後初の宣伝は市民の注目の中で実施されました。

ＪＡＬ闘争を支える京都の会 京セラ名誉顧問・JAL名誉顧問の稻盛和夫氏 あての申し入れをおこなう

6月9日午後2時頃、「京都の会」事務局長・駒井と会員のIさんの2名で京セラ本社で稻盛和夫氏あてのJAL解雇争議解決への努力を求める申し入れをおこないました。相手側は総務課のKさんともう1名が対応し、「会社として申入書を受け取る」という対応をしました。